

2017年 3月 9日

幹事 横山哲夫

事故事例研究会（第V期）

企画書

1. 研究会名称 : 事故事例研究会 (第V期)
2. 提案者 : 横山哲夫 (中島 幹、野田 剛)
3. 提案理由

第I～II期では、各社が経験した事故事例をクローズド環境で討議し、各人の知識として持ち帰り、安全対策の参考にすることを目的として進めた。そして、第III期では安全対策の伝承の方法を、第IV期では、次世代に向けた安全対策の伝承を試みた。

しかし、安全対策の伝承ができれば事故は防げるのか、それ以外の方法を検討する必要はないかとの思いと、伝承という言葉のなかに、何か上から目線的な面を感じた。現場で働く個人が、安全対策を自らが学習し、あるいは気づきを持たなければ、安全は確保されないと考えられる。また、それらの安全対策が身についたとしても、人の性格や本能から事故を誘引してしまうこともある。

事故事例から事故の真の原因を討議し、安全対策の方法を知識として得てきたが、伝承の難しさと、事故は人が起こすという観点から、第V期の事故事例研究会を考える。

4. 研究計画

第V期は、事故は人が起こすという観点から、安全について討議していく。今後、ますます少子高齢化が進み、労働人口が減っていくなか、安全に社会活動を継続していくには、設備側の安全性や安全教育面を考慮したとしても、個人の力量に依存せざるを得ない。個人の力量（知識、知恵、性格など）を評価し、それに見合ったスキルアップの手法などを、二ヶ月に1回、二年間の研究会で討議し探っていく。あわせて、当研究会の方針である事故事例から学ぶ活動も継続して行く。

以上